

部局紹介

調査及び立法考査局

国会の立法活動を補佐するため、国会議員その他国会関係者に対して、法案等の分析・評価、国政審議に係る政治、経済、社会等各般の調査及び情報提供を行います。

また、国会情報・立法情報への国民のアクセスを助け、国会と国民をつなぐ役割も果たします。

調査及び立法考査局行政法務課 副主査

大迫 丈志 H19入館(1種)

- Career
 - H19. 4～ 総務部総務課
 - H21. 7～ 調査及び立法考査局行政法務課
 - H25. 8～ 長期在外研究 (マギル大学比較法研究所)
 - H26.10～ 調査及び立法考査局行政法務課

- Profile
 - 学生時代の専攻 / 法学
 - 志 望 動 機 / 誰でも自由に調べものを行える環境作りに関わりたい
 - マイブーム / 広く知られていない名勝や美味しい店を探し出すこと
 - 好きな本 / アサヒグラフ編「わが家のためし」朝日新聞社、1986.



収集書誌部

納本制度に基づく国内出版物の網羅的な収集、購入や国際交換による外国出版物等の収集から、書誌データや典拠データの作成といった資料整理、そして資料を恒久的に後世に伝えるための資料保存までを担います。

MESSAGE

収集、整理、保存…図書館の「礎」

「国立国会図書館には日本で発行された全ての本がある。」こんな話をどこかで耳にされたことがあるでしょうか。これを裏付けるのが、出版物の発行者に国立国会図書館への資料の納入を義務付ける納本制度です。日本の文化的資産を集め、利用し、そして後世に伝えていくための基礎となるこの制度は、紙の本が中心だった昭和23年に導入されてからインターネットや電子書籍が普及した現在まで、多くの改正を経てきました。担当の一人として、よりよい制度と運用を目指して審議会の運営などに携わる中で、「本」を取り巻く環境の変化を肌で感じています。

この納本制度による納入だけでなく、国立国会図書館は多くの出版物を購入しており、さらに寄贈や国際交換で入手する出版物もあります。私の所属する収集書誌部は、毎日届く大量の出版物を1点1点確認し、書誌データを作成し、長期間保存するための対策まで行う図書館の「礎」。私たちの手を経て図書館に入ってくる出版物を、現在の、そして未来の利用者の皆様が手に取る日を想像しながら、毎日頑張っています。



収集書誌部収集・書誌調整課 課長補佐

井上 佐知子 H12入館(1種)

- Career
 - H12. 4～ 収集部収集課
 - H15. 7～ 関西館資料部文献提供課
 - H17. 4～ 同 事業部電子図書館課 電子情報発信係長(H17.7～)
 - H18. 4～ 主題情報部参考企画課 情報サービス第二係長
 - H19. 7～ 総務部会計課 調達係長(H20.4～)
 - H23. 7～ 調査及び立法考査局文教科学技術課
 - H26.10～ 国際子ども図書館企画協力課
 - H28. 4～ 収集書誌部収集・書誌調整課 課長補佐

- Profile
 - 学生時代の専攻 / 教育学
 - 志 望 動 機 / 業務時間中に好きな本を読んでも許されると思っていたから、そんなことはないですよ、念のため。



納本される出版物が図書館に到着したところ



関係の同僚との打合せ

MESSAGE

専門的知見をいかし国会を補佐する

私が属する行政法務課は、行政制度、公務員制度、地方自治、民事・刑事法制、人権等の専門的な調査を担当しています。調査には、国会議員等の依頼に基づく依頼調査と、依頼を予測して論文の執筆等を行う予測調査の2種類があります。依頼調査では、限られた時間内に当館所蔵資料をはじめとする膨大な資料の中から適切な情報を選別し、分かりやすく整理・分析して回答します。報告書の作成や面談による説明を求められる場合も少なくありません。予測調査では、関連分野の資料を数多く読み、国内外の事情について過去の経緯から最新の動向までを把握した上で原稿を執筆します。調査の成果を基に、議員や秘書等の国会関係者向けのセミナーを開くこともあります。

外国事情に関する調査にも力を入れています。主要言語を諳解して文献調査を行うほか、出張して実地調査を行うこともあります。また、在外研究制度も用意されています。私は、カナダの大学院に1年間留学し、法制度の比較手法を研究して調査能力を向上させる機会を得ました。

調査員のやりがい、専門的知見をいかして国会を補佐し、活発な国政審議に貢献できることです。調査結果がそのまま国会の委員会での質疑に使われることもありますが、価値ある情報を届けられるように、丁寧な調査を心掛けています。

仕事を通して知的な刺激を得られることも魅力です。経済学、物理学など多様な専門を持つ同僚との研究会や、国内外の学識経験者を招いての説明聴取会を通じ、調査員としての研さんを重ねています。

若々しい知性と活力を持つ皆さん、ぜひ私たちの仕事にその力を貸してください。



ベトナムとの共同政策セミナーでの報告



留学先の研究所のメンバーと



資料を広げて同僚と打合せ

ある1日のスケジュール

- 8:45 登庁、メールチェック
- 9:00 午前中締切りの調査結果を課長に報告
- 9:05 全国紙の朝刊をチェック
- 9:30 明日締切りの依頼調査について書庫で資料調べ
- 11:00 課長の指摘を反映させた回答文書を送信担当者に託し、依頼者に報告
- 12:00 昼食をとりながらフランス語の勉強会に参加
- 13:00 午前中の調査結果を文書にまとめる
- 13:30 至急回答を要する調査依頼を受けたため優先して取り組む
- 14:30 行政法専攻の大学教授による説明聴取会に遅れて参加
- 16:00 予測調査として公文書管理制度に関する原稿執筆
- 18:20 各種調査の締切りを確認し、退庁

電子情報部

情報技術を用いた国会議員への調査サービス・情報提供サービスの充実のほか、国内外の誰もが利活用可能な「知識インフラ」の構築を目指します。また、業務の基盤となるネットワークやシステムの管理を担います。

MESSAGE

コミュニケーションを通じてシステムを作り育てる

電子情報サービス課は、情報システムの企画・開発業務を担っています。当館では様々なシステムを開発し、公開していますが、中でも、情報を収集し、整理し、利用者に届けるという当館の使命を最もよく体現しているのが考えるのが、国立国会図書館サーチ(NDLサーチ)です。NDLサーチは、全国の図書館、公文書館、美術館・博物館等の資料を統合的に検索できるサービスです。私は、NDLサーチの企画段階から携わり、現在も開発、運用等を担当しています。

意外に思われるかもしれませんが、システムの開発や運用を担ううえで最も重要な能力は、コミュニケーション能力です。開発委託業者から報告を受け、内容を検討したうえで作業指示を出す。NDLサーチが連携する外部システムの担当者と、各種の調整を行う。システムを継続的に改善していくために、同僚と様々な議論を交わす。仕事の大部分は、そういったコミュニケーションで成り立っています。

情報システムを作り育てることは、当館が提供するサービスのありべき姿を日々考え、具現化していくことです。皆さんもそのような仕事をしてみませんか。



電子情報部電子情報サービス課 課長補佐

小澤 弘太 H7入館(II種)

- Career
 - H 7. 4～ 逐次刊行物部雑誌課
 - H10. 4～ 調査及び立法考査局財政金融課
 - H13. 4～ 同 国会レファレンス課
 - H14. 4～ 主題情報部科学技術・経済課 経済社会係長(H15.4～) 企画運営係長(H19.4～)
 - H21. 4～ 総務部情報システム課 システム第一係長(H22.4～)
 - H23.10～ 電子情報部電子情報サービス課 課長補佐

- Profile
 - 学生時代の専攻 / 経済学
 - 志 望 動 機 / 図書館に育てられていまの自分がある、という想いからです。知識・情報で人を強くすることに貢献したいと考えていました。

- 趣 味 / 映画鑑賞 (一番好きな映画監督はサム・ペキンパー) 音楽鑑賞(主にロック) 旅行(特に好きな旅行先は韓国)



開発中のシステムについて同僚と議論



NDLサーチトップページ (http://ss.ndl.go.jp/)

海外での業務・調査研究

1年～2年海外の大学院等に職員を派遣する長期在外研究、数週間から数か月海外の図書館や研究機関等に職員を派遣する短期在外研究のほか、国際会議への出席や現地での図書館事情、政策課題に関する調査などの海外出張の機会があり、若手の職員から管理職員まで、年間で約40名の職員が海外での業務・調査研究の機会を得ています。

※ 本パンフレット内の職員の所属・年齢・役職・年次は、平成28年11月時点のもの。